

The Kita Osaka Shinkin Bank

北おおさか信用金庫

# 景況レポート

2015年4~6月期 **No.6**

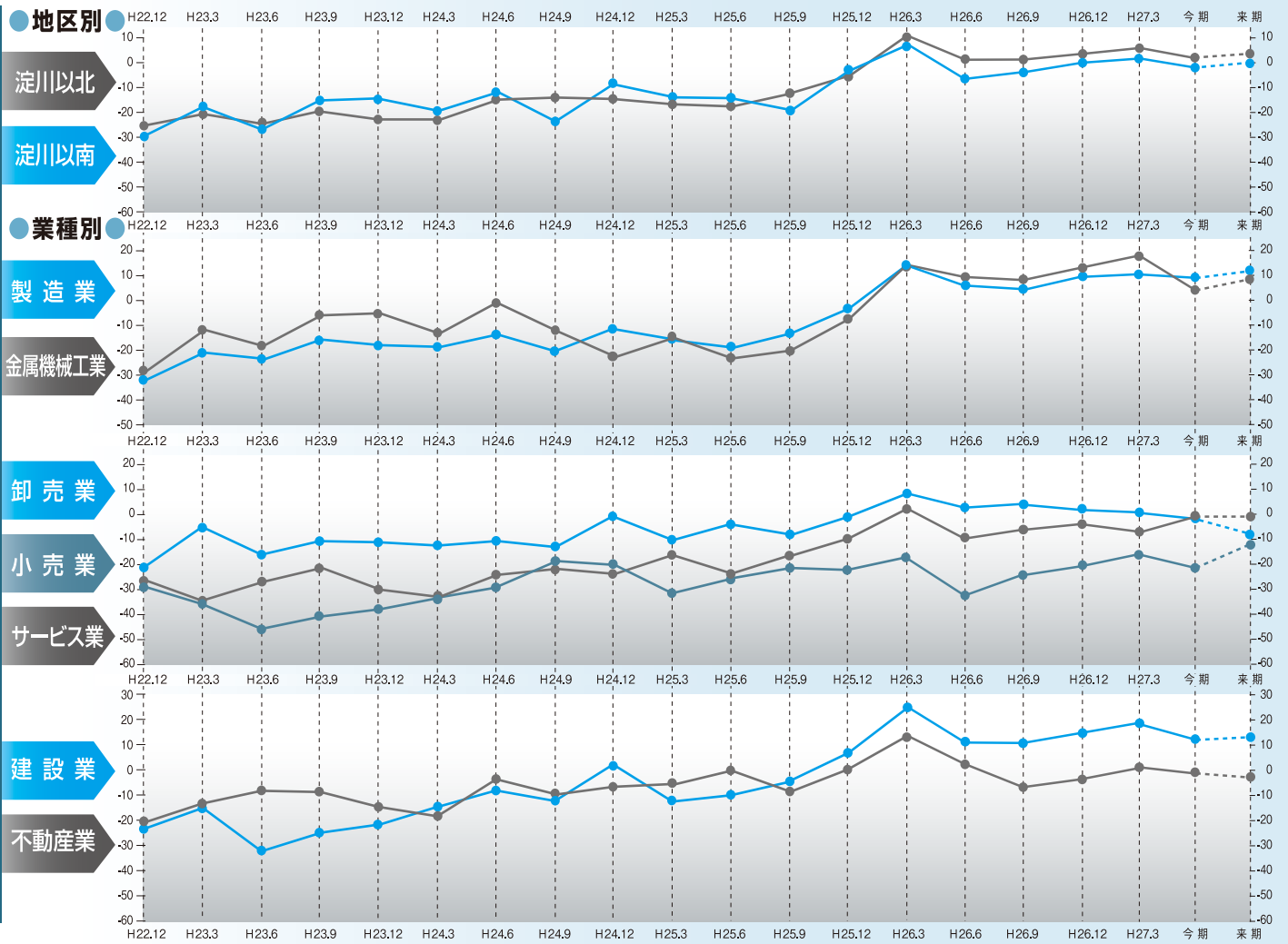
# Business Condition Report



この街の未来をひらく

北おおさか信用金庫

地区別・業種別  
業況判断D-Iの推移



## INDEX

地区別・業種別 業況判断DI 来期予想までの推移・目次	1
調査概要	2
全業種総合	3・4
製造業	5
金属機械工業	6
卸売業	7
小売業	8
サービス業	9
建設業	10
不動産業	11
特別調査「平成27年・春の採用と賃金」について	12・13・14

- 〈調査概要〉 調査対象………地元企業1,200社(有効回答1,200社)  
 調査時期………平成27年6月  
 調査対象期間…平成27年4月～6月期 当期の実績 (27年1月～3月期との比較)  
 平成27年7月～9月期 来期の見通し(27年4月～6月期との比較)  
 調査方法………当金庫職員による調査表に基づく聞き取り調査  
 分析方法………DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

●DIとは

各調査項目について「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽・容易」の回答割合から、「悪い」「減少」「低下」「不足」「苦しい・難しい」の回答割合を差引いた数値です(普通、変わらず、適正は除外しております)。

(例)良い10%、やや良い20%、普通30%、やや悪い15%、悪い25%の場合

①良い = 良い10% + やや良い20% = 30%

②悪い = 悪い25% + やや悪い15% = 40%

DI = ① - ② = ▲10

●調査内容と注意点

- (1)売上額、収益、受注残高、販売・仕入価格、在庫、資金繰り、残業時間は前期と比べた当期の状況(来期見通しは当期と比べた来期予想)です。  
 (2)業況、人手、借入の難易度は、前期比ではなく、その時点での状況です。

●各判断DIが示す内容

	(プラス)	(マイナス)
業 況	現状 「良い」	現状 「悪い」
売上額・収益	前期比「増加」	前期比「減少」
受注残高・残業時間	前期比「増加」	前期比「減少」
販売価格・仕入価格	前期比「価格上昇」	前期比「価格下降」
(原材料)在庫	前期比「過剰」	前期比「不足」
資金繰り	前期比「楽」	前期比「苦しい」
人 手	現状 「過剰」	現状 「不足」
借入の難易度	現状 「容易」	現状 「難しい」

※DIプラスが良いとは限りません(例:仕入価格判断DIプラスは前期比価格上昇)

■対象企業の業種・従業員別構成

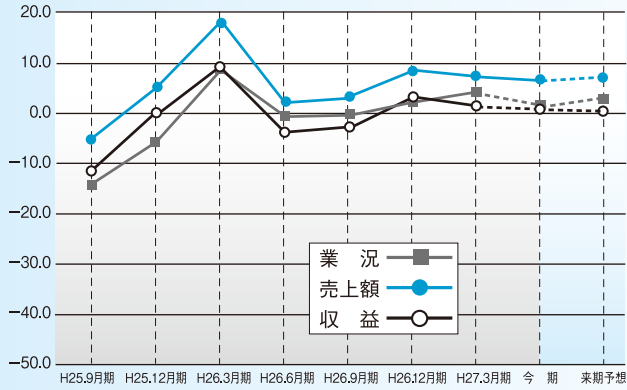
	4名以下	5～9名	10～19名	20～29名	30～49名	50～99名	100名以上	合 計(構成比)	
製 造 業	30	43	54	29	26	8	10	200	16.7%
金属機械工業	42	53	48	29	14	7	7	200	16.7%
卸 売 業	34	31	28	12	6	7	2	120	10.0%
小 売 業	76	29	18	7	4	7	9	150	12.5%
サービス業	54	43	31	13	20	20	19	200	16.7%
建 設 業	50	57	64	14	6	7	2	200	16.7%
不動産業	87	30	10	1	1	—	1	130	10.8%
合 計	373	286	253	105	77	56	50	1,200	100.0%
(構成比)	31.1%	23.8%	21.1%	8.8%	6.4%	4.7%	4.2%	100.0%	—

\*製造業の構成比が他5業種と比較して大きいため、製造業のうち金属機械工業を1業種として分割しております。

●調査地域

淀川以北:島本町、高槻市、茨木市、吹田市、摂津市、豊中市、箕面市、池田市、伊丹市、尼崎市、東淀川区、淀川区、西淀川区 他 淀川以北  
 淀川以南:寝屋川市、門真市、守口市、北区、西区、中央区、城東区、旭区、住吉区、此花区、福島区 他 淀川以南

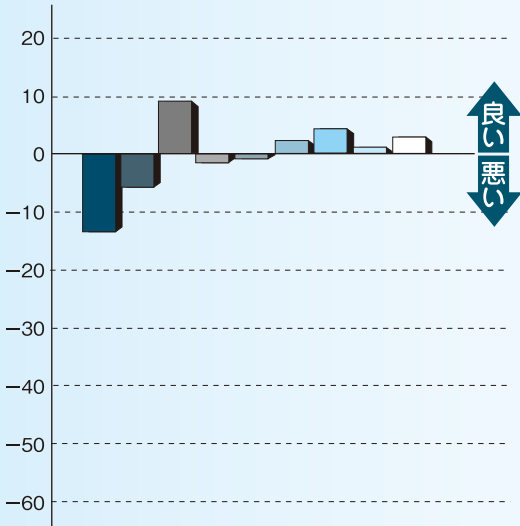
業況・売上額・収益



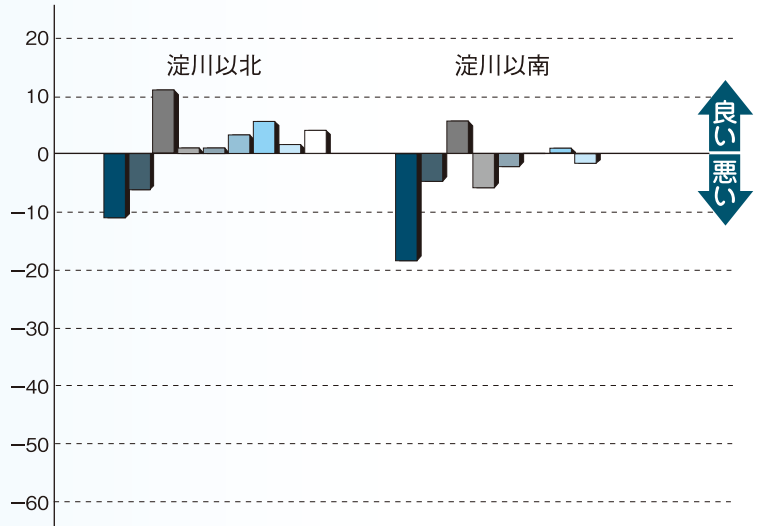
全業種総合 DI値の推移

	H25.9月期	H25.12月期	H26.3月期	H26.6月期	H26.9月期	H26.12月期	H27.3月期	今期	来期予想
業況	-13.3	-5.4	9.6	-0.9	-0.4	2.5	4.7	1.0	2.9
売上額	-4.9	6.1	18.5	1.8	3.6	8.6	7.6	6.6	7.1
受注残	-0.3	9.3	26.4	11.5	10.0	16.1	20.6	10.7	12.8
施工高	0.0	23.2	22.7	10.5	6.9	16.5	15.5	8.5	15.5
収益	-11.2	0.2	9.5	-4.1	-2.7	3.4	1.5	0.7	0.5
販売価格	-5.8	-0.8	3.7	6.0	5.4	3.4	2.9	3.1	2.6
原材料・仕入価格	20.4	22.4	21.4	24.4	25.3	23.7	20.4	22.2	17.3
在庫	-2.8	0.2	-0.6	-1.6	-2.5	-2.1	0.0	-1.6	-4.0
資金繰り	-12.4	-9.8	-5.8	-6.5	-6.0	-5.8	-7.6	-2.2	-2.7
従業員残業時間	-0.4	5.2	11.2	5.3	5.6	6.7	7.3	4.5	4.9
従業員人手	-9.2	-12.9	-12.7	-11.0	-11.5	-13.5	-13.5	-13.6	-13.9
設備状況	-6.9	-7.9	-6.2	-5.9	-6.5	-6.4	-8.5	-6.6	-6.1

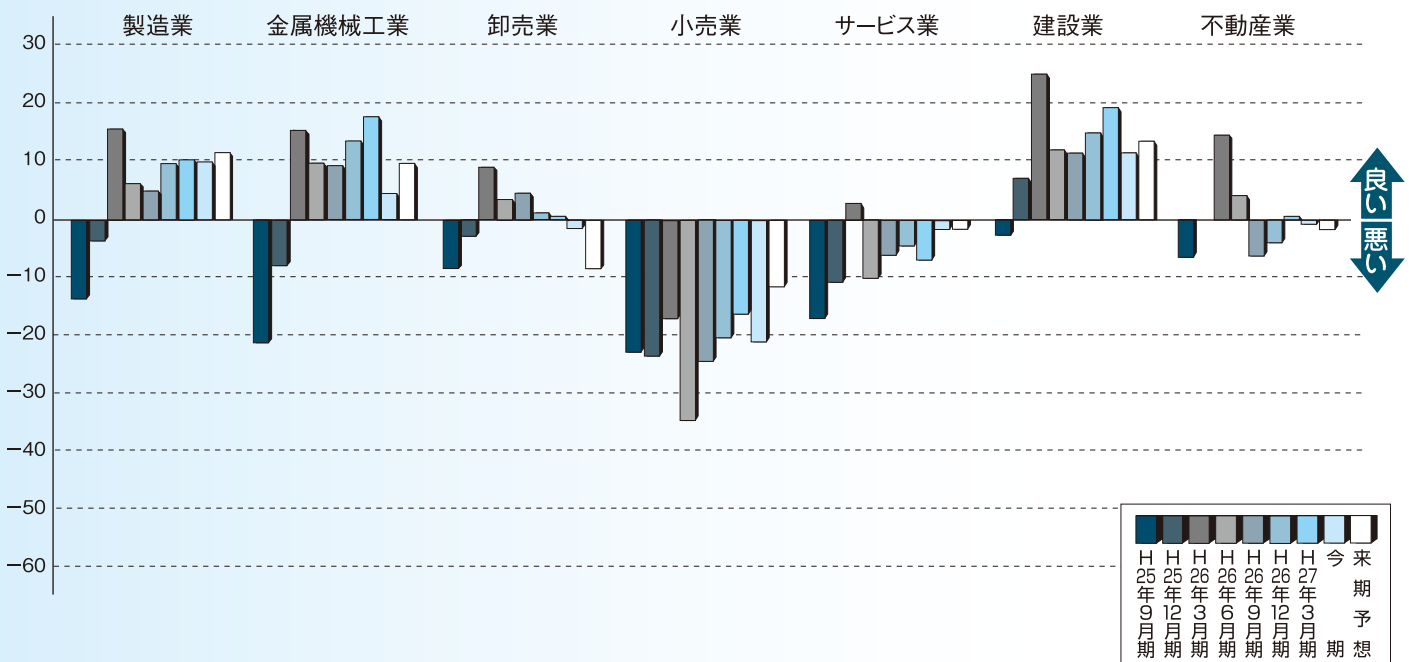
全体業況判断DI



地区別業況判断DI



業種別業況判断DI



## 業況について

### ～2015年4月～6月期、業況は小幅に悪化～

2015年4月～6月期、全業種の業況判断DIは(前期4.7→)1.0(前期比3.7ポイント減)となり、小幅に悪化した。前回調査時点での今期見通し(3.5)から2.5ポイント下回った。

2015年7月～9月期(来期)の予想、業況判断DIは2.9(今期実績比1.9ポイント増)となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。

### ～サービス業は改善、金属機械工業は大幅悪化、業種でまちまち～

業種別にみると、サービス業が改善、金属機械工業が大幅に悪化、建設業が悪化、小売業が小幅に悪化、卸売業及び不動産業はほぼ横ばい、製造業は横ばいとなった。最も業況判断DIが高かったのは建設業で、11.5(前期比7.5ポイント減)となった。以下は、製造業9.5(前期比0.5ポイント減)、金属機械工業4.0(前期比13.5ポイント減)、不動産業▲0.8(前期比1.5ポイント減)、サービス業▲1.5(前期比5.5ポイント増)、卸売業▲1.6(前期比2.4ポイント減)、小売業▲21.3(前期比4.6ポイント減)の順に続いた。

### ～景況感は淀川以北・以南ともに小幅に悪化～

地域別にみると、業況判断DIは淀川以北地域(前期5.5→)1.9(前期比3.6ポイント減)となり、小幅に悪化となった。淀川以南地域の業況判断DIは(前期1.8→)▲2.2(前期比4.0ポイント減)となり、小幅に悪化した。これは前回調査時点での今期見通し(2.2)から4.4ポイント下回った。

2015年7月～9月期(来期)の業況は、淀川以北地域は3.6となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。また淀川以南地域も0.0となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。

## 売上額・収益の動き

### ～売上額、収益ともに横ばい、業種でまちまち～

全業種の売上額判断DIは(前期7.6→)6.6(前期比1.0ポイント減)となり、横ばいで推移した。対象7業種ではサービス業が大幅改善、卸売業が改善となった。一方建設業がかなり大幅に悪化、金属機械工業は悪化、小売業は小幅に悪化となった。また不動産業及び製造業は、ほぼ横ばいとなった。

最も売上額判断DIが高かった業種は、製造業13.0(前期比2.0ポイント増)となった。以下、卸売業12.5(前期比8.3ポイント増)、サービス業10.0(前期比14.0ポイント増)、金属機械工業8.0(前期比9.5ポイント減)、不動産業7.6(前期比3.0ポイント増)、建設業7.0(前期比16.0ポイント減)、小売業▲14.0(前期比4.0ポイント減)の順に続いた。

全業種の収益判断DIは(前期1.5→)0.7(前期比0.8ポイント減)となり、横ばいで推移した。対象7業種では売上額判断DI同様にサービス業が大幅改善、卸売業が改善となった。一方、建設業、金属機械工業はいずれも大幅悪化となった。製造業、不動産業、小売業はほぼ横ばいで推移した。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、売上額判断DIは7.1、また収益判断DIは0.5となり、ともに横ばいの見通しとなった。

## 販売価格・原材料・仕入価格の動き

### ～販売価格、原材料・仕入価格ともにほぼ横ばい～

販売価格判断DIは(前期2.9→)3.1(前期比0.2ポイント増)となり、横ばいで推移した。原材料・仕入価格判断DIは(前期20.4→)22.2(前期比1.8ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移した。9期連続で原材料・仕入価格判断DIは20を超えた。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは2.6となり、横ばいの見通しとなった。原材料・仕入価格判断DIは17.3となり今期実績から4.9ポイント小幅に改善の見通しとなった。

## 資金繰り・雇用面の動き

### ～資金繰りは改善、人手不足感は横ばい～

資金繰り判断DIは(前期▲7.6→)▲2.2(前期比5.4ポイント増)となり、改善した。

人手判断DIは(前期▲13.5→)▲13.6(前期比0.1ポイント減)となり、人手不足感は横ばいに推移した。人手判断DIが最も高かったのは卸売業▲1.7となった。以下順に不動産業▲3.8、小売業▲6.0、製造業▲13.0、金属機械工業▲17.5、建設業▲20.5、サービス業▲22.5の順に続いた。

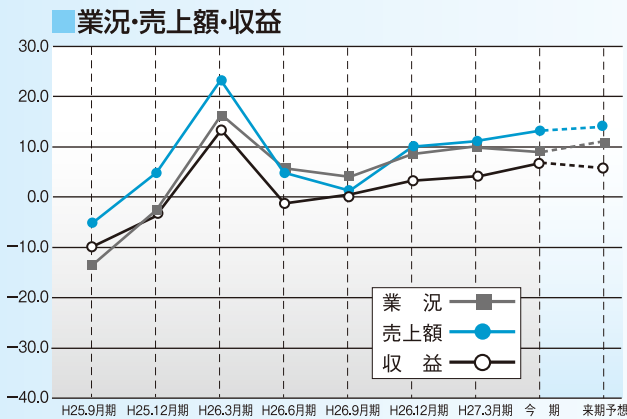
2015年7月～9月期(来期)の予想は、資金繰り判断DIは▲2.7となり、横ばいで推移する見通しとなった。人手判断DIは▲13.9となり、人手不足感も横ばいの見通しとなった。

## 経営上の問題点

	1位		2位		3位		4位		5位	
製造業	同業者間の競争の激化	43.0%	売上の停滞・減少	37.5%	利幅の縮小	28.5%	原材料・料金価格高	22.0%	人手不足	12.0%
金属機械工業	同業者間の競争の激化	43.0%	売上の停滞・減少	36.5%	利幅の縮小	29.0%	原材料・料金価格高	20.0%	人手不足	17.5%
卸売業	同業者間の競争の激化	52.5%	利幅の縮小	36.7%	売上の停滞・減少	35.0%	仕入先からの値上げ要請	14.2%	為替レートの変動	14.2%
小売業	同業者間の競争の激化	46.0%	売上の停滞・減少	42.0%	大型店との競争激化	41.3%	商店街の集客力の低下	20.0%	利幅の縮小	18.0%
サービス業	同業者間の競争の激化	52.0%	売上の停滞・減少	29.5%	利幅の縮小	21.5%	人手不足	18.5%	人件費の増加	17.0%
建設業	同業者間の競争の激化	49.5%	人手不足	30.0%	利幅の縮小	28.5%	原材料・材料価格の上昇	23.5%	売上の停滞・減少	21.5%
不動産業	商品物件の不足	57.7%	同業者間の競争の激化	50.8%	利幅の縮小	33.1%	商品物件の高騰	23.8%	売上の停滞・減少	18.5%

## 当面の重点経営施策

	1位		2位		3位		4位		5位	
製造業	販路を広げる	71.5%	経費を節減	54.5%	情報力を強化	27.0%	新製品・技術を開発	22.0%	人材確保	12.5%
金属機械工業	販路を広げる	67.0%	経費を節減	54.5%	人材確保	22.0%	情報力を強化	19.5%	新製品・技術を開発	16.5%
卸売業	販路を広げる	81.7%	経費を節減	50.8%	品揃えを充実	30.8%	情報力を強化	29.2%	提携先を見つける	15.8%
小売業	経費を節減	62.0%	品揃えを充実	38.0%	宣伝・広告を強化	36.0%	売れ筋商品を取扱う	36.0%	商店街事業を活性化	14.7%
サービス業	販路を広げる	58.5%	経費を節減	55.0%	宣伝・広告を強化	28.0%	人材確保	20.0%	提携先を見つける	16.5%
建設業	販路を広げる	53.0%	経費を節減	51.0%	人材確保	38.5%	技術力を強化	31.5%	情報力を強化	26.5%
不動産業	情報力を強化	67.7%	宣伝・広告を強化	39.2%	経費を節減	34.6%	販路を広げる	33.1%	不動産の有効活用	17.7%



### ■製造業 DI値の推移

	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	H27.3	今期	来期予想
業況	-13.7	-3.4	15.5	5.5	4.5	8.5	10.0	9.5	11.5
売上額	-5.4	4.1	22.5	5.0	1.5	10.0	11.0	13.0	14.5
受注残	2.8	10.3	22.5	9.5	5.5	13.0	16.0	13.0	13.0
収益	-10.2	-4.1	13.0	-1.0	0.5	3.5	4.0	7.0	5.5
販売価格	-5.5	-7.5	0.0	1.0	2.0	1.0	2.0	2.5	1.0
原材料価格	19.9	19.9	22.0	24.4	29.0	30.0	24.5	26.0	18.5
在庫	1.4	2.8	1.5	3.0	-1.0	2.0	4.5	1.0	-1.0
資金繰り	-11.6	-11.0	-5.5	-4.0	-3.5	-7.0	-7.0	-2.0	-1.5
従業員残業時間	-4.1	9.6	15.0	8.9	4.5	12.5	6.5	5.0	6.5
従業員人手	-5.4	-7.5	-9.5	-6.9	-9.0	-10.0	-5.5	-13.0	-12.5
設備状況	-9.6	-9.6	-7.5	-7.9	-9.0	-6.0	-9.5	-10.0	-10.0

### 業況について

～2015年4月～6月期、製造業の業況は横ばい、来期も横ばいの見通し～

2015年4月～6月期、製造業の業況判断DIは(前期10.0→)9.5(前期比0.5ポイント減)となり、横ばいで推移した。6期連続のプラスとなった。

最多納入先別の業況判断DIを見ると、「小売・最終需要家向け」は10.0(前期比10.0ポイント増)となり、大幅に上昇した。また「問屋・商社向け」も9.7(前期比9.7ポイント増)と同じく上昇した。一方「中小メーカー向け」(前回8.7ポイントの増)は、今回8.2(前期比5.5ポイント減)となり、低下となった。「大メーカー向け」は11.8(前期比2.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移した。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全体	200	31	51	98	20
良い～悪い	19	3	6	8	2
DI	9.5%	9.7%	11.8%	8.2%	10.0%

2015年7月～9月期(来期)の予想は、業況判断DIは11.5(今期実績比2.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移する見通しとなった。

### 売上額・収益・受注残の動き

～売上額、収益、受注残ともほぼ横ばい、来期もほぼ横ばい～

売上額判断DIは(前期11.0→)13.0(前期比2.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移した。収益判断DIは(前期4.0→)7.0(前期比3.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移した。受注判断DIは(前期16.0→)13.0(前期比3.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。2015年7月～9月期(来期)の予想は、売上額判断DIは14.5(今期実績比1.5増)となり、前回調査での強気な予想からは後退し、ほぼ横ばいの見通しとなった。収益判断DIは5.5(今期実績比1.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。また受注判断DIは13.0(今期実績比0.0ポイント)となり、横ばいの見通しとなった。

### 販売価格・原材料・仕入価格の動き

～販売価格、原材料・仕入価格は横ばい、来期の原材料・仕入価格は改善の見通し～

販売価格判断DIは(前期2.0→)2.5(前期比0.5ポイント増)となり、横ばいとなった。原材料価格判断DIは(前期24.5→)26.0(前期比1.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。2015年7月～9月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは1.0(今期実績比1.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。原材料価格判断DIは18.5(今期実績比7.5ポイント減)となり、改善の見通しとなった。

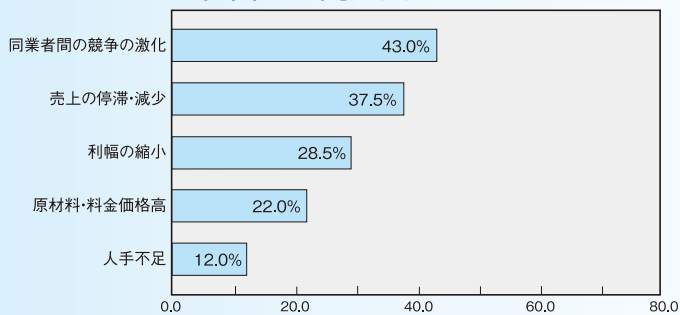
### 資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは改善、人手不足感は強まる～

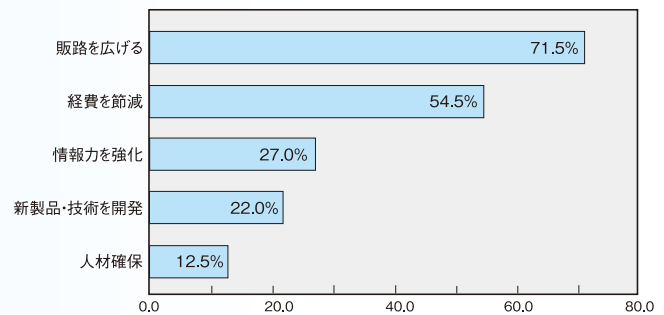
資金繰り判断DIは(前期▲7.0→)▲2.0(前期比5.0ポイント増)となり、改善した。人手判断DIは(前期▲5.5→)▲13.0(前期比7.5ポイント減)となり、人手不足感は強まった。

人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期4.0%→)1.0%、適正とした企業が(前期86.5%→)85.0%、不足とした企業が(前期9.5%→)14.0%

### ■経営上の問題点



### ■当面の重点経営施策

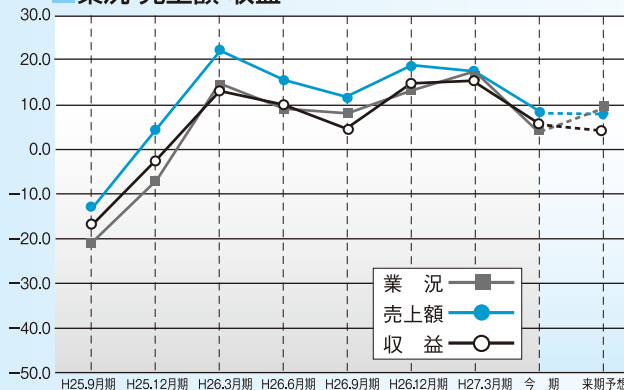


### 企業のコメント



- ・業況は良好である。売上、収益、受注とも増加しており、この好調さは当面続くと見ている。(プラスチック製品製造業)
- ・売上、受注、収益とも増加にあり、当面は維持できると見込んでいる。(発泡スチロール製鋳型模型製造業)
- ・業況は横ばいで、先行きの見通しについては、判断が難しい。(プラスチック製品製造業)
- ・売上、受注、収益とも増加しており、数名の新卒採用と、ベースアップを行った。(その他製造業)
- ・人手不足は常態化しており、早期の解消は難しい。また売上、収益とも当面は減少が見込まれ厳しい。(製袋業)
- ・売上、収益は減少しており、人を減らしてコスト削減を行ったが、一方で生産能力が低下し厳しい。(その他製造業)

業況・売上額・収益



金属機械工業 DI値の推移

	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	H27.3	今期	来期予想
業況	-21.2	-7.7	14.5	9.5	8.0	13.0	17.5	4.0	9.5
売上額	-12.8	5.1	21.9	15.6	11.5	18.5	17.5	8.0	8.5
受注残	-11.9	0.0	22.9	11.0	13.5	16.0	20.5	8.0	8.0
収益	-16.9	-2.5	13.2	10.0	4.0	15.0	15.5	5.0	4.0
販売価格	-13.6	0.0	0.5	1.5	1.0	-0.5	2.0	0.5	1.0
原材料価格	16.9	23.7	17.8	19.1	21.0	19.0	22.5	21.5	15.0
在庫	-4.3	3.4	3.1	-1.5	-1.5	0.0	3.5	0.5	0.5
資金繰り	-22.9	-17.8	-1.6	-1.5	-3.5	-0.5	-4.0	2.5	4.0
従業員残業時間	-5.1	6.8	15.2	11.6	10.5	9.0	21.0	9.5	10.0
従業員人手	-6.8	-17.8	-10.2	-12.1	-13.0	-18.0	-20.5	-17.5	-13.5
設備状況	-6.8	-9.4	-7.1	-9.1	-11.5	-11.5	-14.5	-8.5	-7.0

業況について

～2015年4月～6月期、金属機械工業の業況は大幅に悪化、来期は改善の見通し～

2015年4月～6月期、金属機械工業の業況判断DIは(前期17.5→)4.0(前期比13.5ポイント減)となり、大幅な悪化となった。前回調査時点での今期見通し(12.5)を大きく下まわった。

最多納入先別業況判断DIを見ると、最も高かったのは「大メーカー向け」17.5(前期比9.8ポイント減)、順に「中小メーカー」0.9(前期比15.6ポイント減)、「小売・最終需要家向け」0.0(前期比16.7ポイント減)、「問屋・商社向け」▲20.0(前期比9.5ポイント減)となった。特に前回調査時に大幅低下(前期比23.0ポイント減)した「問屋・商社向け」は2期連続して低下となった。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、業況判断DIは9.5(今期実績比5.5ポイント増)となり、改善の見通しとなった。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全体	200	20	63	109	8
良い～悪い	8	-4	11	1	0
DI	4.0%	-20.0%	17.5%	0.9%	0.0%

売上額・収益・受注の動き

～売上額、収益とも悪化、来期はともに横ばいの見通し～

売上額判断DIは(前期17.5→)8.0(前期比9.5ポイント減)となり、悪化した。収益判断DIは(前期15.5→)5.0(前期比10.5ポイント減)となり、大幅に悪化となった。受注判断DIは(前期20.5→)8.0(前期比12.5ポイント減)となり、大幅に悪化となった。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、売上額判断DIは8.5(今期実績比0.5ポイント増)となり、横ばいの見通しとなった。また収益判断DIは4.0(今期実績比1.0ポイント減)となり、横ばいで推移するとの見通しとなった。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格、原材料価格とも横ばい、来期は原材料価格が改善の見通し～

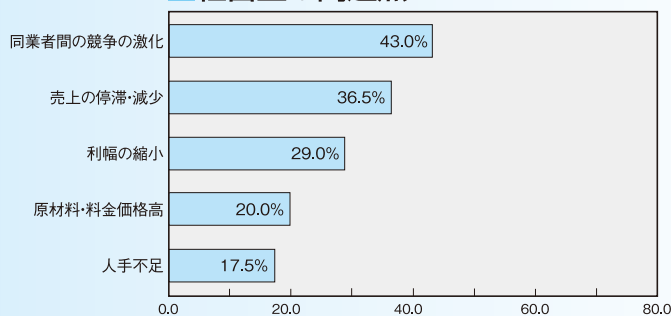
販売価格判断DIは(前期2.0→)0.5(前期比1.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。原材料価格判断DIは(前期22.5→)21.5(前期比1.0ポイント減)となり、横ばいとなった。2015年7月～9月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは1.0(今期実績比0.5ポイント増)となり、横ばいで推移する見通しとなった。原材料価格DIが15.0(今期実績比6.5ポイント減)となり、改善の見通しとなった。

資金繰り・雇用面の動き

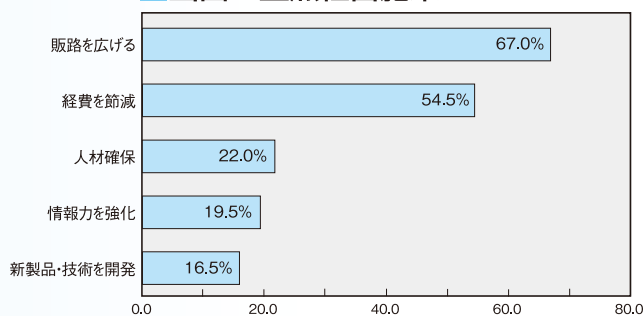
～資金繰りは改善、人手不足感はほぼ横ばい～

資金繰り判断DIは(前期▲4.0→)2.5(前期比6.5ポイント増)となり、改善した。人手判断DIは(前期▲20.5→)▲17.5(前期比3.0ポイント増)となり、不足感はほぼ横ばいとなった。ただ前年同期比では5.4ポイント低下している。人手判断DIの内訳は、人手過剰とした企業が(前期0.0%→)1.5%、適正とした企業が(79.5%→)79.5%、不足とした企業が(前期20.5%→)19.0%となった。

経営上の問題点



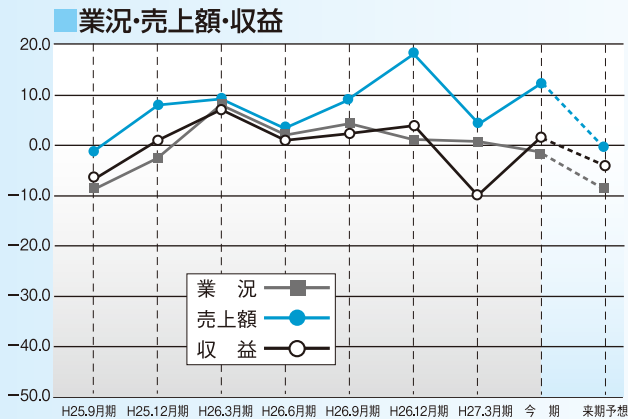
当面の重点経営施策



企業のコメント



- ・工場改築に合わせ新設備で作業の効率化が図られた。(段ボール用刃物製造業)
- ・財務改善が進んだので、今後は生産調整で断っていた仕事を積極的に受注する為の設備をする。(精密機械部品加工業)
- ・受注の多くは短期である。しかし徹底した工程管理をすることで売上確保をしている。(ステンレス製品製造業)
- ・ベテラン従業員の高齢化が更に進んでいる。一方で若い従業員の育成は追い付いていない。(非鉄金属製造業)
- ・売上、受注とも減少しており、今後は経費の削減による利益確保を図っていく。(金属製品製造業)
- ・売上、受注は減少している。原材料価格の上昇は更に利益を圧迫している。(ステンレス製品製造業)



卸売業 DI値の推移

	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	H27.3	今期	来期予想
業況	-8.0	-2.3	8.3	3.3	4.2	1.6	0.8	-1.6	-8.3
売上額	-1.2	8.1	9.0	4.0	9.2	18.3	4.2	12.5	-0.9
収益	-5.7	1.1	8.1	1.6	2.5	4.1	-10.0	1.7	-4.2
販売価格	-2.3	2.3	4.0	11.3	11.6	14.2	5.9	10.0	6.7
仕入価格	23.0	19.5	17.7	22.8	19.1	26.6	22.5	23.3	20.0
在庫	8.1	4.6	2.5	0.0	4.2	5.0	4.1	3.3	0.8
資金繰り	-11.5	-5.8	-4.8	0.0	1.7	-1.7	-7.5	0.0	-2.5
従業員残業時間	2.3	1.2	0.8	2.4	0.9	0.8	1.6	2.5	2.5
従業員人手	-13.8	-11.6	-8.1	-9.8	-7.5	-7.5	-5.0	-1.7	-1.7
設備状況	0.7	-6.9	-4.1	-0.8	-0.9	-2.5	-2.5	0.0	0.0

業況について

～2015年4月～6月期、卸売業の業況はほぼ横ばい、来期は悪化の見通し～

2015年4月～6月期、卸売業の業況判断DIは(前期0.8→)▲1.6(前期比2.4ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。

最多納入先別に業況判断DIをみると、最も高かったのは「大メーカー向け」12.5(前期比26.4ポイント減)、順に「中小メーカー向け」0.0(前期比10.8ポイント増)、「問屋・商社向け」▲3.7(前期比3.4ポイント増)、「小売業者向け」▲7.1(前期比7.1ポイント減)となった。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、業況判断DIは▲8.3(今期実績比6.7ポイント減)となり、悪化すると見通しとなった。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売業者
全体	120	27	16	35	42
良い～悪い	-2	-1	2	0	-3
DI	-1.7%	-3.7%	12.5%	0.0%	-7.1%

売上額・収益の動き

～売上額、収益とも改善、来期はともに悪化の見通し～

売上額判断DIは(前期4.2→)12.5(前期比8.3ポイント増)となり、改善となった。収益判断DIは(前期▲10.0→)1.7(前期比11.7ポイント増)となり、大幅に改善となった。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、売上額判断DIは▲0.9(今期実績比13.4ポイント減)となり、大幅に悪化すると見通しとなった。

収益判断DIは▲4.2(今期実績比5.9ポイント減)となり、悪化すると見通しとなった。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は小幅に改善、仕入価格は横ばい、来期は仕入価格が小幅に改善の見通し～

販売価格判断DIは(前期5.9→)10.0(前期比4.1ポイント増)となり、小幅に改善となった。仕入価格判断DIは(前期22.5→)23.3(前期比0.8ポイント増)となり、横ばいとなった。

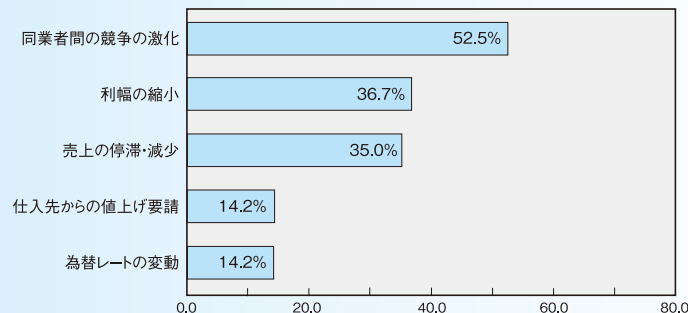
2015年7月～9月期(来期)の予想は、販売価格DIは6.7(今期実績比3.3ポイント減)となり、小幅に悪化する見通しとなった。仕入価格判断DIは20.0(今期実績比3.3ポイント減)となり、小幅に改善の見通しとなった。

在庫・資金繰り・雇用面の動き

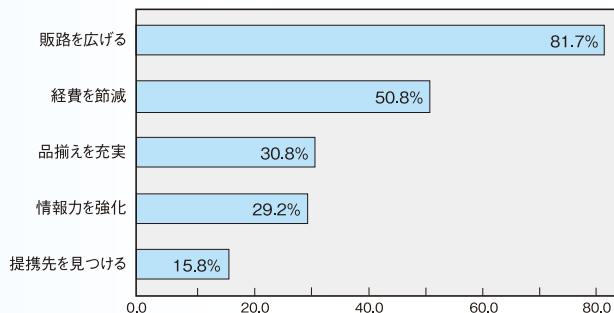
～在庫は横ばい、資金繰りは悪化～

在庫判断DIは(前期4.1→)3.3(前期比0.8ポイント減)となり、横ばいで推移した。資金繰り判断DIは(前期▲7.5→)0.0(前期比7.5ポイント減)となり、悪化した。人手判断DIは(前期▲5.0→)▲1.7(前期比3.3ポイント増)となり、人手不足感は小幅に改善した。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期2.5%→)2.5%、適正とした企業が(前期90.0%→)93.3%、不足とした企業が(前期7.5%→)4.2%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策



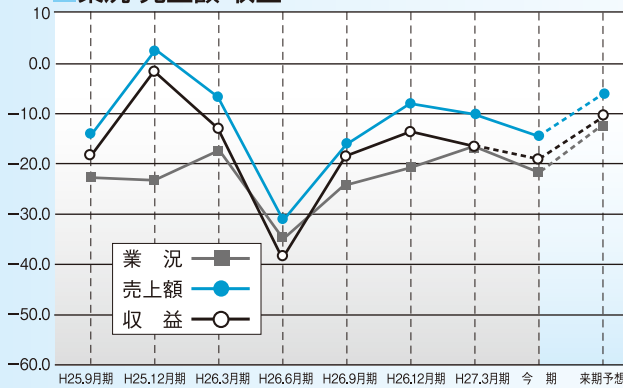
企業のコメント



- ・新店舗を出店する企業から安定して受注が来ており、売上は好調である。(食料・飲料卸売業)
- ・インターネット販売(スマートフォン対応)が好調である。(衣料・身の回り品卸売業)
- ・販売価格、仕入価格はともに下降している。販路拡大に努めて売上額の確保を図りたい。(一般鋼材・加工品卸売業)
- ・関東方面からの受注は好調であるが、関西方面は伸びていない。(機械工具卸売業)
- ・業況は悪く、売上の減少が資金計画を厳しくしている。(化学製品卸売業)
- ・円安の影響で輸入コストは上昇し、収益を圧迫させている。(文具・事務用品卸売業)



業況・売上額・収益



小売業 DI値の推移

	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	H27.3	今期	来期予想
業況	-22.4	-23.4	-17.3	-34.7	-24.6	-20.7	-16.7	-21.3	-12.0
売上額	-14.3	3.1	-6.0	-31.3	-16.7	-8.0	-10.0	-14.0	-6.0
収益	-18.4	-1.0	-12.6	-38.8	-18.0	-13.3	-16.6	-18.7	-10.6
販売価格	0.0	7.1	2.6	11.3	8.7	2.7	0.7	0.0	1.3
仕入価格	28.5	29.6	19.4	29.2	22.0	14.0	16.0	18.0	14.6
在庫	4.1	6.2	2.7	1.3	0.7	-1.3	-1.3	-0.7	-6.7
資金繰り	-21.4	-18.4	-19.3	-19.7	-12.0	-14.0	-15.4	-16.0	-14.0
従業員残業時間	3.0	4.1	4.6	-0.7	1.3	0.0	0.0	2.7	1.3
従業員人手	-9.2	-11.3	-5.4	-5.5	-6.0	-5.3	-8.0	-6.0	-7.4
設備状況	-2.1	-5.1	-4.6	-2.7	-3.3	-2.7	-4.7	-5.3	-4.7

業況について

～2015年4月～6月期、小売業の業況は4期ぶり悪化するも一時的、来期は改善の見通し～

2015年4月～6月期、小売業の業況判断DIは(前期▲16.7→)▲21.3(前期比4.6ポイント減)となり、小幅に悪化となった。4期ぶりに悪化。

店舗立地地域別に業況判断DIをみると、最も業況判断DIが高かったのは「その他」▲13.8

(前期比5.5ポイント減)、次いで「駅周辺商店街」▲22.2(前期比1.4ポイント減)、「住宅地隣接商店街」▲31.6(前期比7.3ポイント減)となった。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、業況判断DIは▲12.0(今期実績比9.3ポイント増)となり、改善するとの見通しとなった。

◎店の立地地域別業況について(当期)

	合計	駅周辺商店街	住宅地隣接商店街	その他
全体	150	54	38	58
良い～悪い	-32	-12	-12	-8
DI	-21.3%	-22.2%	-31.6%	-13.8%

売上額・収益の動き

～売上額は小幅に悪化も一時的、収益はほぼ横ばい、来期はともに改善の見通し～

売上額判断DIは(前期▲10.0→)▲14.0(前期比4.0ポイント減)となり、小幅に悪化となった。収益判断DIは(前期▲16.6→)▲18.7(前期比2.1ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。2015年7月～9月期(来期)の予想は、売上額判断DIは▲6.0(今期実績比8.0ポイント増)となり、改善する見通しとなった。

収益判断DIは▲10.6(今期実績8.1ポイント増)となり、改善する見通しとなった。

料金価格・材料価格の動き

～販売価格、仕入価格とも横ばい、来期は仕入価格が小幅改善の見通し～

販売価格判断DIは(前期0.7→)0.0(前期比0.7ポイント減)となり、横ばいとなった。仕入価格判断DIは(前期16.0→)18.0(前期比2.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。2015年7月～9月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは1.3(今期実績比1.3ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移する見通しとなった。また仕入価格判断DIは14.6(今期実績3.4ポイント減)となり、小幅に改善する見通しとなった。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰り、人手不足感とも横ばい、来期も横ばいの見通し～

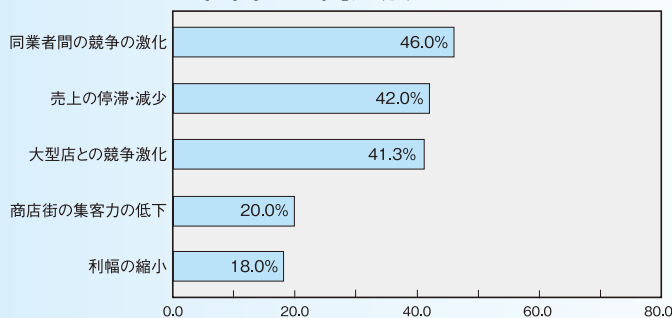
資金繰り判断DIは(前期▲15.4→)▲16.0(前期比0.6ポイント減)となり、横ばいで推移した。資金繰り判断DIは対象7業種の中で最も低い。

人手判断DIは(前期▲8.0→)▲6.0(前期比2.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移となった。

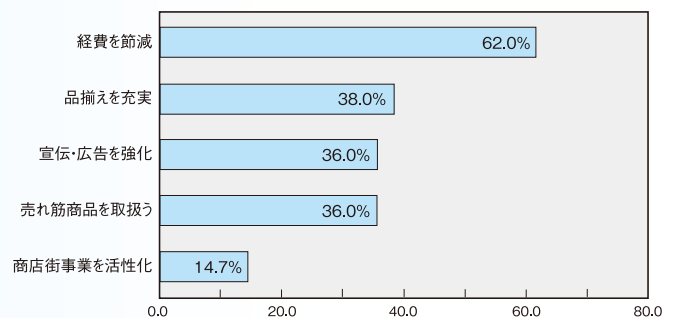
2015年7月～9月期(来期)の予想は、資金繰り判断DIは▲14.0(今期実績比2.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。

人手判断DIは▲7.4(今期実績1.4ポイント減)となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期2.0%→)1.3%、適正とした企業が(前期88.0%→)91.4%、人手不足とした企業が(前期10.0%→)7.3%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

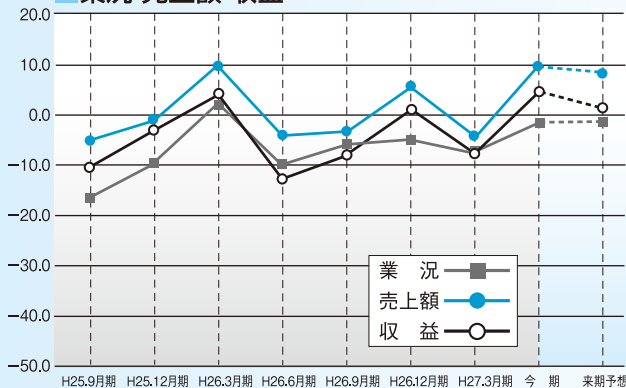


企業のコメント



- ・外国人旅行者への販売が好調で売上、収益とも増加している。人手は不足している。(飲食料品小売業)
- ・新大阪駅周辺でオフィスビル街からの、団体客を含めた利用客が増加し、売上増につながっている。(飲食店)
- ・業況はやや悪く、売上が伸びない状況にある。(書籍・文房具小売業)
- ・固定客を中心に来店客数は減少している。(飲食店)
- ・販売価格が下がっており売上は伸びていない。売上を上げる効果的対策が見当たらない。(自動車・自転車小売業)
- ・大型専門店との価格競争や、品ぞろえで負けている厳しい状況にある。(家具小売業)

■ 業況・売上額・収益



■ サービス業 DI値の推移

	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	H27.3	今期	来期予想
業況	-17.1	-10.0	2.5	-10.0	-5.5	-4.0	-7.0	-1.5	-1.5
売上額	-5.4	-0.8	10.0	-3.5	-3.0	5.5	-4.0	10.0	9.0
収益	-10.8	-3.1	3.0	-12.5	-8.0	1.0	-7.5	5.0	1.5
料金価格	-9.4	-1.5	6.5	7.0	8.5	4.0	1.0	5.0	4.5
材料価格	13.9	16.4	19.1	22.5	26.5	18.0	7.5	14.0	13.5
資金繰り	-8.5	-6.3	0.0	-10.5	-11.5	-8.5	-10.0	-5.0	-5.0
従業員残業時間	-0.8	-2.3	10.5	6.0	5.5	10.5	6.5	6.0	3.5
従業員人手	-8.5	-14.0	-14.5	-10.0	-14.0	-18.5	-19.0	-22.5	-23.0
設備状況	-10.9	-10.0	-9.6	-7.5	-8.0	-7.0	-10.5	-9.0	-7.5

業況について

～2015年4月～6月期、サービス業の業況は改善、来期は横ばいの見通し～

2015年4月～6月期、サービス業の業況判断DIは(前期▲7.0→)▲1.5(前期比5.5ポイント増)となり、改善となった。  
2015年7月～9月期(来期)の予想は、業況判断DIは▲1.5(今期実績比0.0ポイント)となり、横ばいの見通しとなった。

売上額・収益の動き

～売上額、収益とも大幅に改善、来期は収益が小幅に悪化の見通し～

売上額判断DIは(前期▲4.0→)10.0(前期比14.0ポイント増)となり、大幅に改善となった。収益判断DIは(前期▲7.5→)5.0(前期比12.5ポイント増)となり、大幅に改善となった。  
2015年7月～9月期(来期)の予想は、売上額判断DIは9.0(今期実績比1.0ポイント減)となり、横ばいで推移するとの見通しとなった。収益判断DIは1.5(今期実績比3.5ポイント減)となり、小幅に悪化するとの見通しとなった。

料金価格・材料価格の動き

～料金価格は小幅に改善、材料価格は悪化、来期はともに横ばいの見通し～

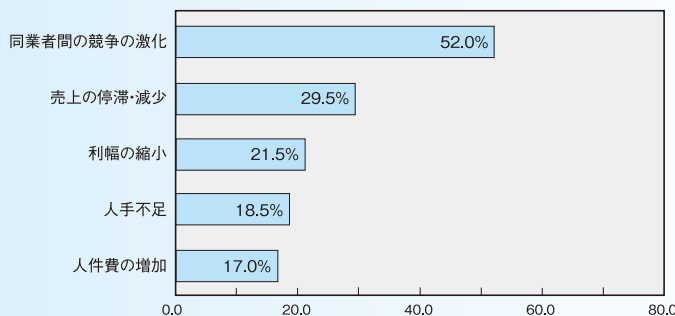
料金価格判断DIは(前期1.0→)5.0(前期比4.0ポイント増)となり、小幅に改善となった。材料価格判断DIは(前期7.5→)14.0(前期比6.5ポイント増)となり、悪化となった。  
2015年7月～9月期(来期)の予想は、料金価格判断DIは4.5(今期実績比0.5ポイント減)となり、横ばいとの見通しとなった。材料価格判断DIは13.5(今期実績比0.5ポイント減)となり、横ばいとの見通しとなった。

資金繰り・雇用面の動き

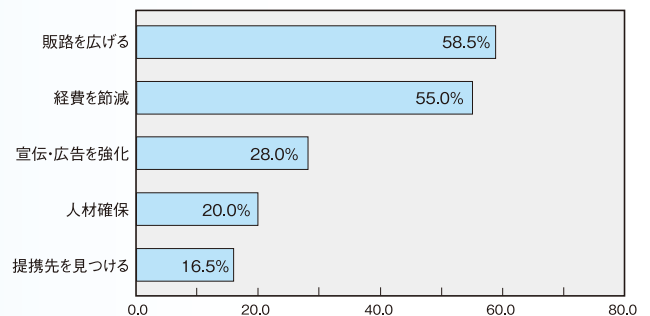
～資金繰りは小幅に改善、人手不足感は小幅に強まる～

資金繰り判断DIは(前期▲10.0→)▲5.0(前期比5.0ポイント増)となり、小幅に改善となった。  
人手判断DIは(前期▲19.0→)▲22.5(前期比3.5ポイント減)となり、人手不足感は小幅に強まった。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期2.0%→)1.0%、適正とした企業が(前期77.0%→)75.5%、人手不足とした企業が(前期21.0%→)23.5%となった。

■ 経営上の問題点



■ 当面の重点経営施策

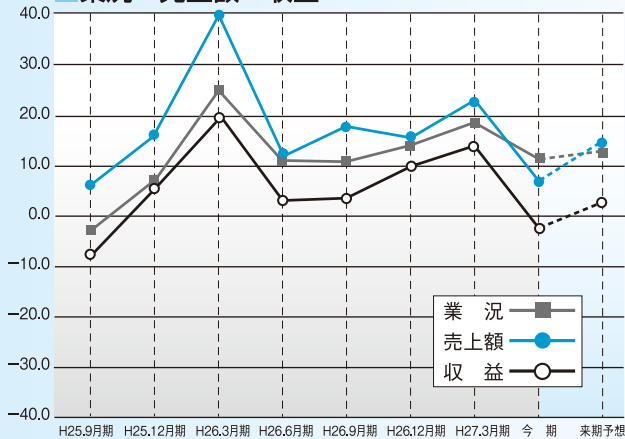


企業のコメント



- ・ 昨年4月の料金見直し以降、売上、利益は増加し好調を維持している。(クリーニング業)
- ・ 材料価格はやや上昇したが、提供するサービスに高い評価を得ており、業況は良い、この業況は当面続くと予想。(その他サービス業)
- ・ エリア内の競争店は多く飽和状態である。新たな展開を考えている。(介護・福祉医療用品業)
- ・ 売上は減少したが、一時的で懸念はしていない。(建機リース業)
- ・ 他業界からの新規参入などで競争は激化の中、人材確保が難しく、人手不足は当面解消しないと思う。(その他サービス業)
- ・ 材料価格はやや上昇している。(洗濯・理容・浴場業)

業況・売上額・収益



建設業 DI値の推移

	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	H27.3	今期	来期予想
業況	-2.5	7.5	25.0	11.0	10.5	14.5	19.0	11.5	13.0
売上額	6.6	16.6	40.0	11.9	18.5	15.5	23.0	7.0	15.0
受注残	7.4	17.4	40.5	13.9	16.0	19.5	25.5	11.0	17.5
施工高	12.4	23.2	34.5	10.5	16.0	16.5	15.5	8.5	15.5
収益	-7.4	5.8	20.0	3.0	3.5	10.0	14.5	-2.5	2.5
請負価格	-4.9	-4.9	7.6	5.5	6.5	7.0	9.5	0.5	1.0
原材料・仕入価格	15.7	19.1	24.6	26.4	33.0	32.5	28.5	26.0	18.0
在庫	-0.8	0.0	-3.5	-2.0	-3.0	-1.0	0.5	-0.5	-1.5
資金繰り	-8.3	-8.2	-12.5	-9.9	-9.0	-7.0	-10.5	0.0	-3.5
従業員残業時間	4.9	14.1	21.0	4.5	11.0	9.0	10.5	4.0	7.5
従業員人手	-15.7	-23.2	-29.0	-23.9	-22.0	-23.5	-26.5	-20.5	-24.5
設備状況	-3.4	-5.0	-3.0	-4.5	-3.5	-6.0	-6.0	-3.5	-4.5

業況について

～2015年4月～6月期、建設業の業況は悪化、来期はほぼ横ばいの見通し～

2015年4月～6月期、建設業の業況判断DIは(前期19.0→)11.5(前期比7.5ポイント減)となり、悪化となった。業況判断DIは対象7業種の中で最も高い。最多請負先別に業況判断DIを見ると、最も業況判断DIが高かったのは、「官公庁向け」40.0(前期比1.1ポイント増)、次いで「大企業向け」16.1(前期比11.5ポイントの減)、「中小企業向け」2.3(前期比9.8ポイント減)、「個人向け」▲9.5(前期比10.5ポイント増)となった。「官公庁向け」が他に比較し高い数値を維持している。また「個人向け」も大幅改善となった。一方「大企業向け」、「中小企業向け」は低下した。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、業況判断DIは13.0(今期実績比1.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいとの見通しとなった。

◎最多請負先別の業況について(当期)

	合計	官公庁	大企業	中小企業	個人
全体	200	35	56	88	21
良い～悪い	23	14	9	2	-2
DI	11.5%	40.0%	16.1%	2.3%	-9.5%

売上額・収益・受注残の動き

～売上額、収益、受注とも大幅悪化するも一時的、来期はいずれも改善の見通し～

売上額判断DIは(前期23.0→)7.0(前期比16.0ポイント減)となり、かなり大幅に悪化となった。収益判断DIは(前期14.5→)▲2.5(前期比17.0ポイント減)となり、かなり大幅に悪化した。受注判断DIは(前期25.5→)11.0(前期比14.5ポイント減)となり、大幅に悪化した。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、売上額判断DIは15.0(今期実績比8.0ポイント増)となり、改善するとの見通しとなった。収益判断DIは2.5(今期実績比5.0ポイント増)となり、小幅に改善するとの見通しとなった。受注残判断DIは17.5(今期実績比6.5ポイント増)となり、改善するとの見通しとなった。

請負価格・原材料価格の動き

～請負価格は悪化、原材料価格は高止まり、来期は原材料価格が改善する見通し～

請負価格判断DIは(前期9.5→)0.5(前期比9.0ポイント減)となり、悪化となった。原材料価格判断DIは(28.5→)26.0(前期比2.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。2015年7月～9月期(来期)の予想は、請負価格判断DIは1.0(今期実績比0.5ポイント増)となり、横ばいで推移するとの見通しとなった。原材料価格は18.0(今期実績比8.0ポイント減)となり、改善するとの見通しとなった。

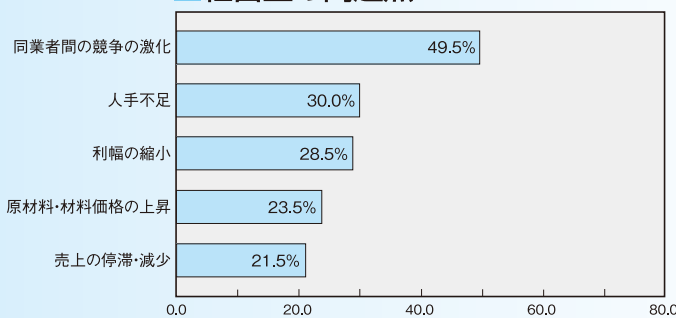
在庫・資金繰り・雇用面の動き

～在庫は横ばい、資金繰りは改善、人手不足感は弱まるも一時的～

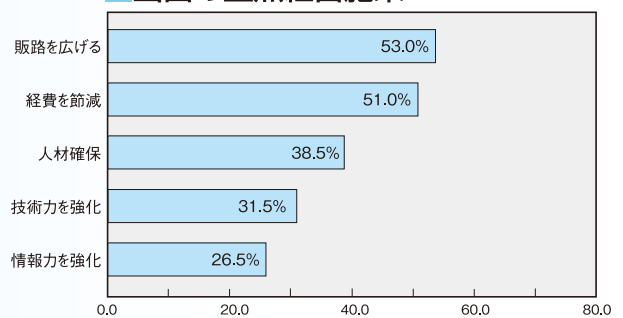
在庫判断DIは(前期0.5→)▲0.5(前期比1.0ポイント減)となり、横ばいで推移した。資金繰り判断DIは(前期▲10.5→)0.0(前期比10.5ポイント増)となり、大幅に改善となった。人手判断DIは(前期▲26.5→)▲20.5(前期比6.0ポイント増)となり、人手不足感は弱まった。ただし一時的で依然として不足感が高い。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、在庫判断DIは▲1.5(今期実績比1.0ポイント減)となり、横ばいで推移するとの見通しとなった。人手判断DIは▲24.5(今期実績比4.0ポイント減)となり、小幅に強まるとの見通しとなった。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期2.5%→)2.0%、適正とした企業が(前期68.5%→)75.5%、人手不足とした企業が(前期29.0%→)22.5%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

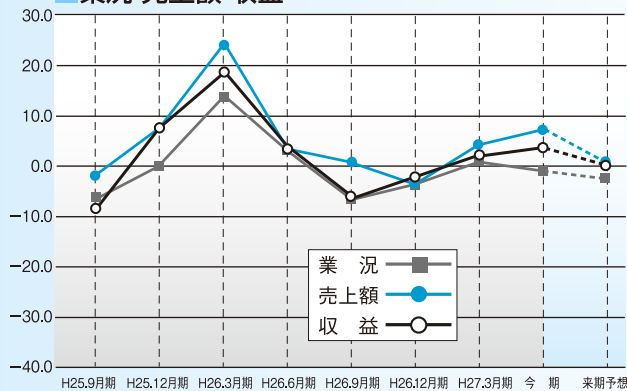


企業のコメント



- ・前年度対比で売上、受注とも増加し業況は良好である。(電気工事業)
- ・東京五輪関連の仕事があり、売上、受注、施工高は増加しており、当面順調に推移する見通しである。(総合建設請負業)
- ・新卒採用を行ったが、教育訓練をする指導者が不足している。(管工事業)
- ・年度替わりで予定工事の着工遅延が見られたが、来期(7～9月期)は回復する見通しをしている。(土木建築業)
- ・売上、収益ともに減少し、少し厳しい状況にある。ただ受注見込みから今後は多少の改善を予想している。(水道工事業)
- ・滞りが必要な遠方で、工期期間も長い仕事が多い。価格競争も厳しく利益は減少している。(管工事業)

業況・売上額・収益



不動産業 DI値の推移

	H25.9月期	H25.12月期	H26.3月期	H26.6月期	H26.9月期	H26.12月期	H27.3月期	今期	来期予想
業況	-6.9	0.0	13.8	3.8	-6.1	-3.8	0.7	-0.8	-2.3
売上額	-2.0	8.0	24.6	3.9	0.8	-3.8	4.6	7.6	0.8
収益	-8.9	8.0	19.2	4.6	-6.1	-2.3	1.6	4.6	0.0
販売価格	-2.0	4.0	5.3	2.3	1.6	-2.3	-1.6	6.2	4.6
仕入価格	29.0	31.6	30.3	28.4	22.4	24.6	21.6	28.5	23.8
在庫	-25.8	-17.2	-11.5	-13.0	-14.6	-20.7	-15.3	-16.2	-20.8
資金繰り	-3.0	0.0	3.0	3.1	-1.5	0.0	3.1	4.6	3.0
従業員残業時間	-1.0	1.0	2.4	-0.8	0.8	-1.5	-3.0	-1.6	-0.8
従業員人手	-5.9	-4.1	-6.9	-4.6	-3.1	-3.8	-0.7	-3.8	-5.4

◎業種内容別業況について(当期)

	全体	賃貸	建売	仲介管理
全体	130	15	69	46
良い-悪い	-1	2	-3	0
DI	-0.8%	13.3%	-4.3%	0.0%

業況について

～2015年4月～6月期、不動産業の業況はほぼ横ばい、来期もほぼ横ばいの見通し～

2015年4月～6月期、不動産業の業況判断DIは(前期0.7→)▲0.8(前期比1.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。

業種内容別に業況判断DIをみると、最も業況判断DIが高かったのは「賃貸」13.3(前期比0.8ポイント増)、次いで「仲介管理」0.0(前期比0.0ポイント)、「建売」▲4.3(前期比2.9ポイント減)となった。「賃貸」は2期連続2けた台となった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は業況判断DIが▲2.3(今期実績比1.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移するとの見通しとなった。

売上額・収益の動き

～売上額、収益ともほぼ横ばい～

売上額判断DIは(前期4.6→)7.6(前期比3.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。前回調査時で8.4ポイント増の改善がみられたが、今回弱まった。

収益判断DIは(前期1.6→)4.6(前期比3.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は改善、仕入価格は悪化、来期は仕入価格は小幅に改善する見通し～

販売価格判断DIは(前期▲1.6→)6.2(前期比7.8ポイント増)となり、改善となった。仕入価格判断DIは(前期21.6→)28.5(前期比6.9ポイント増)となり、悪化となった。

2015年7月～9月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは4.6(今期実績比1.6ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移するとの見通しとなった。

仕入価格判断DIは23.8(今期実績比4.7ポイント減)となり、小幅に改善するとの見通しとなった。

在庫・資金繰り・雇用面の動き

～在庫は横ばい、資金繰りはほぼ横ばい、人手不足感は小幅に悪化～

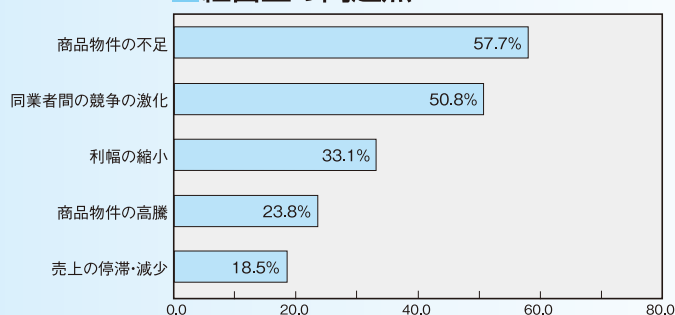
在庫判断DIは(前期▲15.3→)▲16.2(前期比0.9ポイント減)となり、横ばいとなった。

資金繰り判断DIは(前期3.1→)4.6(前期比1.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。

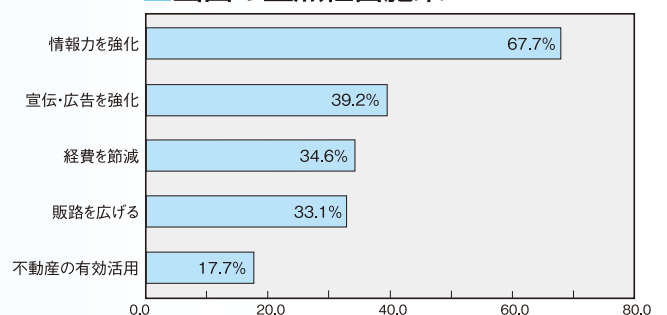
従業員人手判断DIは(前期▲0.7→)▲3.8(前期比3.1ポイント減)となり、小幅に悪化となった。

従業員人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期0.8%→)0.8%、適正とした企業が(前期97.7%→)94.6%、人手不足とした企業が(前期1.5%→)4.6%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策



企業のコメント

- ・貸店舗を中心とした商業ビルの利回りは上昇しており、収益はやや増加している。(貸事務所・貸店舗業)
- ・茨木市の分譲プロジェクトの販売が好調であり、売上は増加している。今後も好調に推移する見込みである。(建売業・土地売買業)
- ・外国人向けシェアハウスが好調で、地主からの一括借り上げにより取組んでいる。(不動産代理業・仲介業)
- ・茨木市は3年後に開業予定のJR新駅など、大型プロジェクトが進み、人口増加が見込まれる。(不動産・管理・仲介・売買・賃貸業)
- ・土地の仕入値は上昇している。販売面での競合他社や売れ筋価格帯を考えると、仕入に躊躇しており、在庫は減少。(建売業)
- ・新築マンションの建設が続いており、収益マンションの稼働率が低下することを懸念している。(不動産賃貸業)

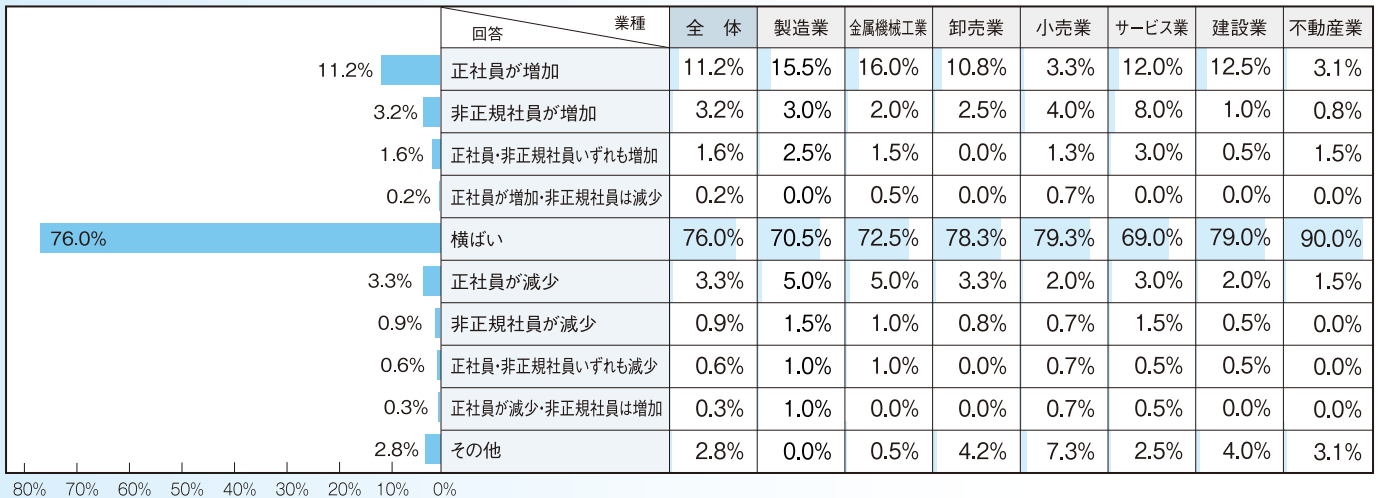
北おおさかしんきん景気動向特別調査として、今回は「平成27年・春の採用と賃金」と題してアンケート調査を行いました。調査期間は平成27年6月1日～6月5日。調査対象は北大阪を中心とする地元企業1,200社で、有効回答企業数1,200社（有効回答率100%）

### 雇用状況について

～社員が「増加」との回答は16.0%～

前年同期と比較した雇用状況を聞いたところ、正社員あるいは非正規社員が「増加」したと回答した企業は全体で16.0%、「減少」したとの回答4.8%を大きく上回った。「横ばい」は76.0%となった。業種別では製造業、金属機械工業の雇用増が目立った。

#### ■ 昨年同期と比較した現在の雇用状況

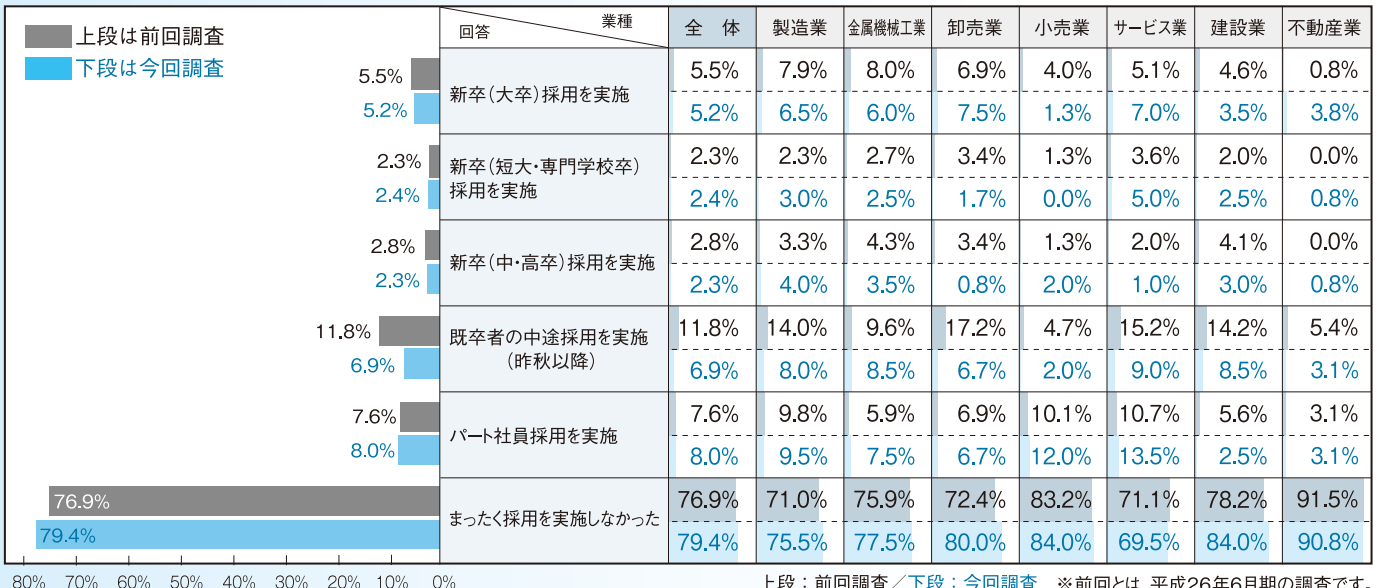


### この春の採用状況について

～新卒採用は1年前を下回る～

今春の採用状況について聞いたところ、「新卒（大卒）採用」した企業が5.2%と1年前の前回調査の5.5%から低下した。また「まったく採用しなかった」との回答が79.4%と前回調査76.9%から上昇した。業種別で「新卒（大卒）採用」した企業の割合が増えたのは卸売業の7.5%（前回調査6.9%）、サービス業7.0%（前回調査5.1%）、不動産業3.8%（前回調査0.8%）の3業種にとどまった。

#### ■ 今春、新卒・中途採用の実施状況（複数回答）



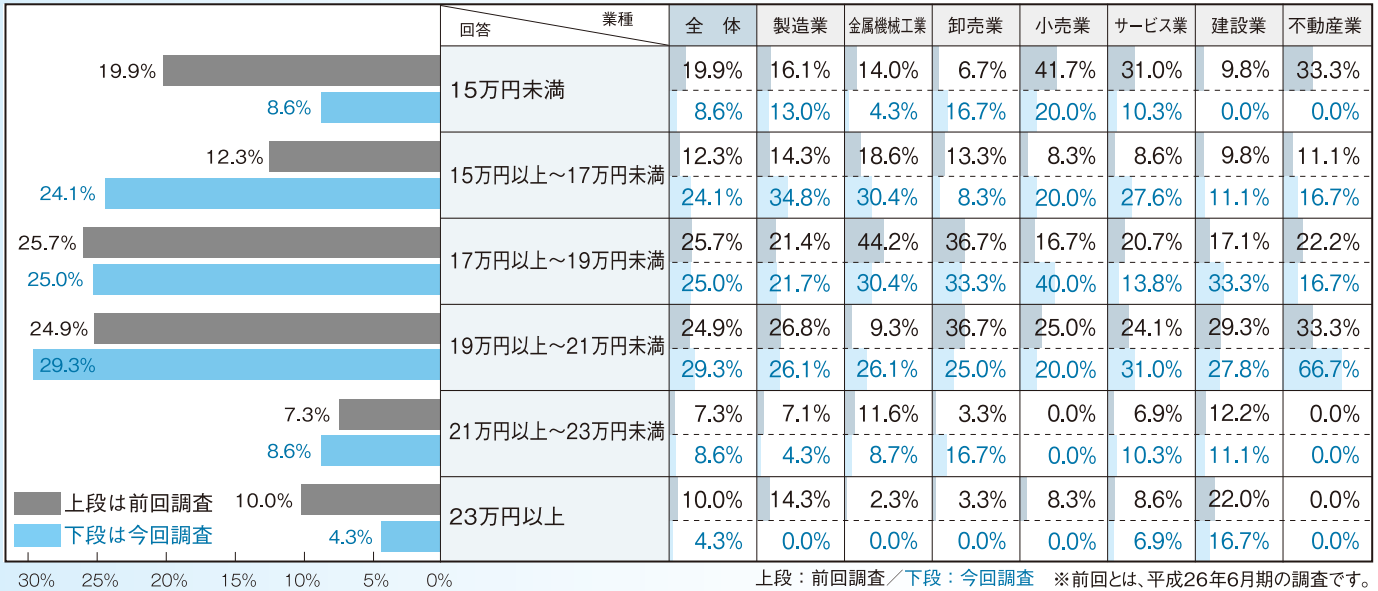
上段：前回調査／下段：今回調査 ※前回とは、平成26年6月期の調査です。

## 新卒採用者の初任給について

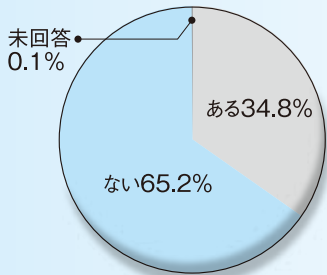
～初任給の水準は昨年に続き「上昇」～

初任給の額で最も多い回答は「19万円以上21万円未満」の29.3%。全体的に初任給の水準は前回調査に引き続き上昇となった。特に「15万円未満」と回答した企業は8.6%と1年前の調査19.9%から大きく減少した。

### ■新卒採用者の初任給（新卒採用を実施した企業のみ回答）



### 定期昇給の有無



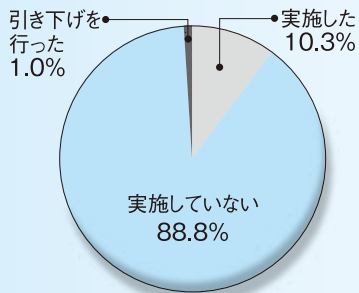
### 定期昇給について

～定期昇給が「ある」との回答は34.8%～

#### ■定期昇給はありますか

回答	業種	全体	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
ある		34.8%	41.5%	41.0%	35.8%	26.0%	36.0%	37.0%	18.5%
ない		65.2%	58.5%	59.0%	64.2%	74.0%	64.0%	62.5%	81.5%
未回答		0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%

### 今春のベースアップ実施の有無



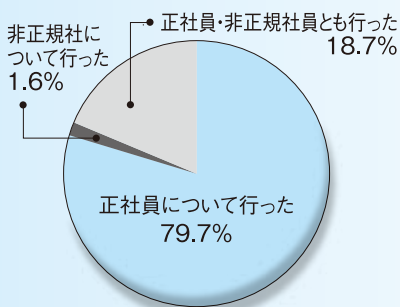
### 春のベースアップについて

～ベースアップを「実施した」との回答は10.3%～

#### ■この春ベースアップの実施の有無

回答	業種	全体	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
実施した		10.3%	13.5%	11.5%	7.5%	6.0%	13.5%	10.5%	5.4%
実施していない		88.8%	86.5%	87.0%	91.7%	92.0%	85.0%	89.5%	93.1%
むしろ引き下げを行った		1.0%	0.0%	1.5%	0.8%	2.0%	1.5%	0.0%	1.5%

### ベースアップの実施内容



### ベースアップの実施内容について

～正社員・非正規社員ともに「行った」との回答は18.7%～

ベースアップを実施した企業に内容を聞いたところ、「正社員のみ」が79.7%、「正社員・非正規社員とも」が18.7%、「非正規社員のみ」が1.6%となった。業種別にみると、小売業で「正社員・非正規社員とも行った」企業が55.6%と平均の18.7%を大きく上回った。

#### ■ベースアップの実施内容（ベースアップを実施した企業のみ回答）

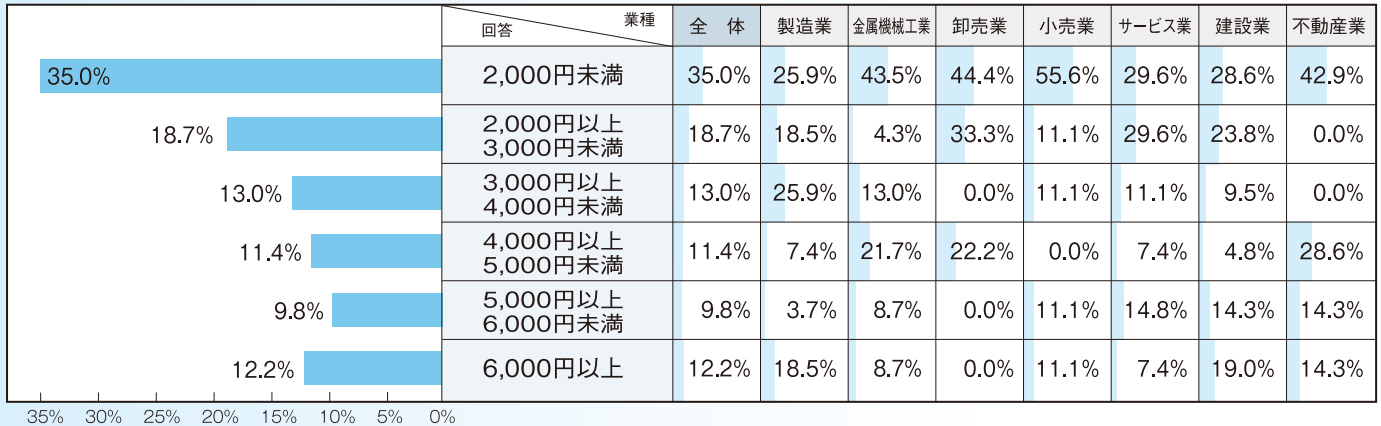
回答	業種	全体	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
正社員について行った		79.7%	77.8%	87.0%	100.0%	33.3%	77.8%	81.0%	100.0%
非正規社員について行った		1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	3.7%	0.0%	0.0%
正社員・非正規社員とも行った		18.7%	22.2%	13.0%	0.0%	55.6%	18.5%	19.0%	0.0%

## ベースアップ額について

～「6,000円以上」との回答が12.2%～

ベースアップ額について聞いたところ、「2,000円未満」が35.0%で最も多く、次いで「2,000円以上3,000円未満」18.7%、「3,000円以上4,000円未満」13.0%など。「6,000円以上」との回答も12.2%にのびた。  
業種別では、建設業、製造業の2割近くの企業が「6,000円以上」と回答した。

### ■ベースアップの額（ベースアップを実施した企業のみ回答）

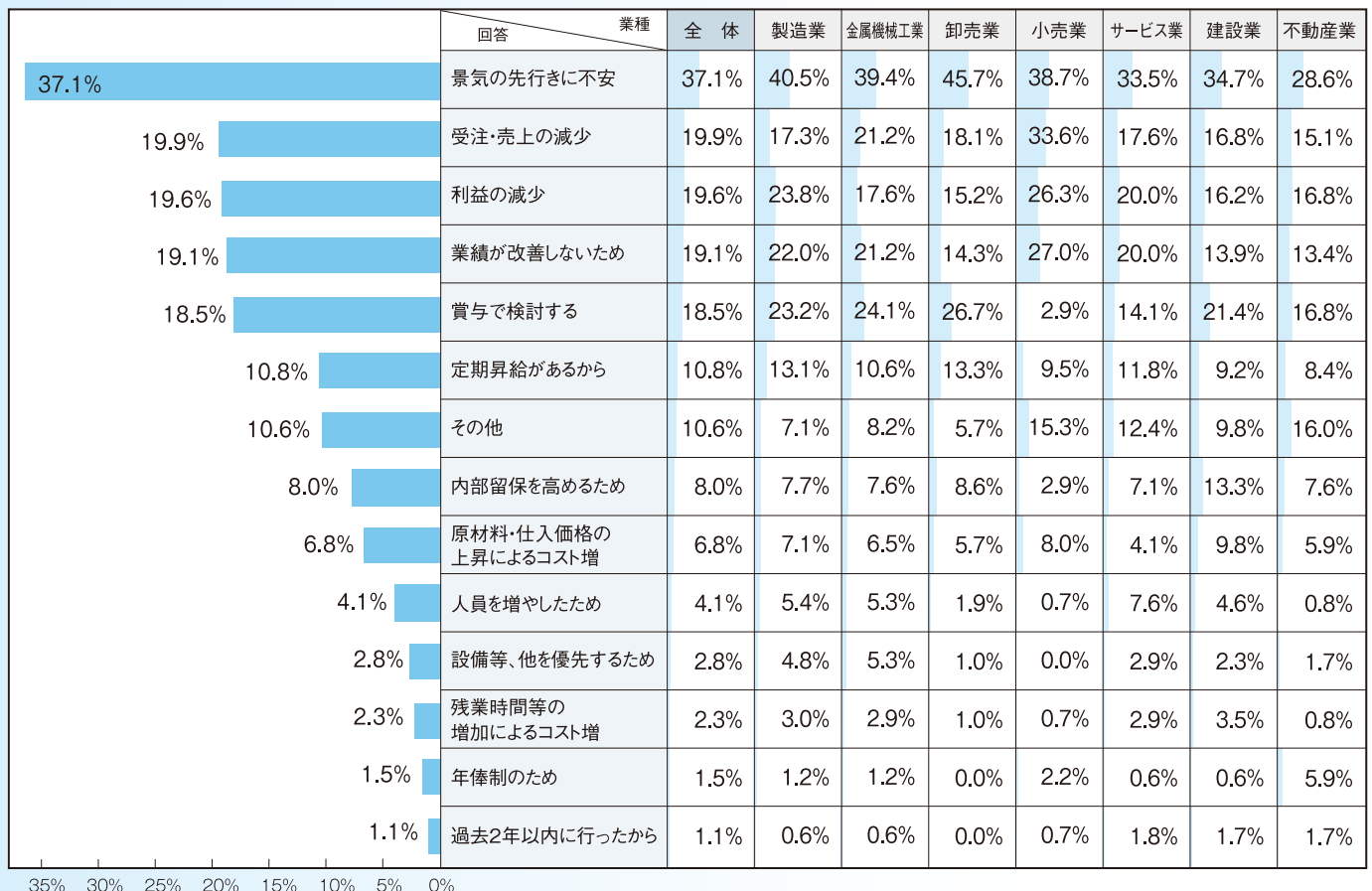


## ベースアップを行わなかった特に大きな理由

～「景気の先行きに不安」との回答は37.1%～

ベースアップを実施しなかった企業に対し、その理由を聞いたところ、最も高かったのは「景気の先行き不安」が37.1%とすべての業種で最も高くなった。業績面を理由とするものが上位を占めた中で、「賞与で検討する」と回答した企業も18.5%あった。

### ■ベースアップを行わなかった特に大きな理由（複数回答）（ベースアップを行わなかった企業のみ回答）



# 地域密着を信条とした78か店のネットワーク

## 店舗のご案内

北おおさか信用金庫 店舗配置図



※地図はイメージです。

店外 ATM

- |  |   |  |  |  |  |
|--|---|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 吹田市水道部出張所</li> <li>◆ 吹田市役所出張所</li> <li>◆ JR吹田駅前さんくす出張所</li> <li>◆ イズミヤ千里丘店出張所</li> <li>◆ メロート吹田出張所</li> <li>◆ イオン南千里店出張所</li> <li>◆ フレンドマート岸辺出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 千里丘駅出張所</li> <li>◆ イオン高槻店出張所</li> <li>◆ セントラルマーケット出張所</li> <li>◆ ダイエー摂津富田店出張所</li> <li>◆ フレンドマート高槻美しが丘店出張所</li> <li>◆ チャオパルコ芥川出張所</li> <li>◆ 阪急オアシス高槻川西店出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ フレンドマート高槻川添店出張所</li> <li>◆ ジョーンズ高槻大塚店出張所</li> <li>◆ 関西スーパー西冠店出張所</li> <li>◆ サボイ出張所</li> <li>◆ マルヤス宮田店出張所</li> <li>◆ コープ島本出張所</li> <li>◆ イオン茨木ショッピングセンター出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コープ茨木白川出張所</li> <li>◆ イオン新茨木店出張所</li> <li>◆ 豊中市役所出張所</li> <li>◆ チャオパルコ豊中出張所</li> <li>◆ 小曾根出張所</li> <li>◆ イオンタウン豊中緑丘SC出張所</li> <li>◆ イオン箕面出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 関西スーパー瑞光店出張所</li> <li>◆ 三国商店街出張所</li> <li>◆ 神崎川駅前出張所</li> <li>◆ イオン高見店出張所</li> <li>◆ 毛馬出張所</li> <li>◆ イオン大日SC出張所</li> <li>◆ ホームス寝屋川出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 菅原出張所(旧菅原支店)</li> <li>◆ 宮原出張所(旧東淀川支店)</li> <li>◆ 千里丘西出張所(旧千里丘支店)</li> <li>◆ 大池出張所(旧大池支店)</li> <li>◆ 立命館大学大阪いばらきキャンパス出張所</li> <li>◆ 相談プラザチャオパルコ豊中</li> </ul> |
|--|---|--|--|--|--|

営業地域(地区別) 大阪府: 大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、守口市、門真市、摂津市、寝屋川市、大東市、東大阪市、枚方市、八尾市、交野市、四条畷市、堺市、松原市、三島郡、豊能郡  
 兵庫県: 尼崎市、伊丹市、川西市、西宮市、宝塚市、川辺郡  
 京都府: 向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町

発行日 平成27年7月31日  
 発行 北おおさか信用金庫 総合企画部  
 住所 〒567-8651 茨木市西駅前町9-32  
 電話 072-623-4981(代)  
 ホームページ <http://www.kitaosaka-shinkin.co.jp/>  
 編集 株式会社 大阪彩都総合研究所

